

学校だより



津市立櫛形小学校
R7.9.26発行
第9号 文責：校長

データから見る櫛形小学校 Part 1

1学期に実施した全国学力・学習状況調査の「本年度の（国・算）結果・昨年度との比較」「本年度実施の理科の結果」とみえスタディチェック（4・5年生）の本校における分析結果についてお知らせさせていただきます。

児童数が少ない本校は、一人当たりの正答・誤答の比率が大きくなりますので、正確に全国・三重県と比較できる**中央値（学校で真ん中の児童の値）**もお伝えします。（学調のみ）

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果（6年生）

	国語				算数				理科	
	平均正答率 （％）		中央値		平均正答率 （％）		中央値		平均正 答率 （％）	中央値
	R 6	R 7	R 6	R 7	R 6	R 7	R 6	R 7	R 7	
櫛形小	61	60	9.0	8.0	69	67	12.0	10	66	12
三重県	67	66	10.0	10	62	57	10.0	9	56	10
全国	67.7	66.8	10.0	10	63.4	58	11.0	10	57.1	10

令和7年度みえスタディチェックの結果（4・5年生）

	国語		算数		理科
	平均正答率（％）		平均正答率（％）		平均正答率（％）
	4年	5年	4年	5年	5年
櫛形小	64.9	56.2	67.1	74.1	57.1
三重県	60.9	55.2	58.7	55.8	55.1

【国語】

- 一問一答形式の問題はできている。
- 条件に当てはめた文章を書くことができていた。これは、宿題で出している家庭学習のプリント（三重県教育委員会発行）の成果が出てきているが、記述式になると正答率は下がる傾向にある。
- 全体を捉えて考える（読み取る）ことに慣れていない。特に文章が長文になると聞かれていることが分らない。
- 筆者や登場人物の考えを推測したり、受け止めたりすることが苦手な児童が多い。
- 漢字やその使い方の練習が必要。
- 算数と比較すると国語を苦手としている児童が多い。

【今後の国語における取組と授業改善】

- ・ペアやグループ活動で、文章を読み、課題解決する活動を引き続き取り入れ、多様な考えから学べる授業を展開する。
- ・家庭学習において、読み取りや記述問題を定期的に宿題として出し、初めて読む文章や記述の問題に慣れるように経験を積み重ねる。
- ・昨年度、「朝の学習」において国語の授業を行っていたのを、今年度より国語の授業を1時間確保し、実施している。授業内容の充実に努め、その成果を来年度に検証する。

【算数】

- 全国・県の平均よりも約10ポイント以上上回っており、昨年度に引き続き、算数の学力が定着しており、算数の得意な児童が多い。
- 基本問題ができています。
- 複数の解答がある問題が苦手。
- 図形の向きが変わると分からなくなっている。

【今後の算数における取組と授業改善】

- ・ペアやグループ活動を取り入れ、情報量の多い課題を解決したり、理由を説明したりする学習を取り入れる。
- ・図形や複数の解答がある問題について家庭学習を通してプリントを出し、いろいろな問題を解く経験を積ませる。

【理科】

- 全国・県の平均よりも上回っている。
- 体験・実験した問題はできています。
- 基礎・基本的な理科用語・実験などはできています。
- 説明する国語力が低いため、得点に結びついていない。
- 資料が多いと資料を読み取ることが難しい

【今後の理科における取組と授業改善】

- ・実験をできるかぎり行い、経験させる。結果を自分の言葉でまとめる力をつける。
- ・国語の力が理科の得点へとつながっているため、引き続き、国語の授業において「書く力」をつける場面を多く設定する。

校長のひとりごと

本年度の全国学力・学習調査、みえスタディチェックの結果から、本校の児童については、おおむね学力については定着をしていることが分かりました。ただ、国語については、昨年度に引き続き、算数に比べ、低い傾向にあります。本年度より朝の学習で細切れに指導していた国語の授業を取りやめ（高学年）、週の時間割の中に1時間を確保し、国語の学習をじっくり学べるよう日課を変更しております。その成果については、来年度以降の結果を待つこととなりますが、国語が苦手な児童が多いことを念頭に、国語の授業の充実に努めます。昨年度より家庭学習において宿題として出しているプリント（三重県教育委員会の発行）を引き続き取り組み、いろいろなパターンの問題にも対応できる力をつけていきたいと思います。